

部活動紹介コーナー「青春の1ページ」に登場する南区内の中学・高校の部活動を募集しています。生徒、保護者からの応募も歓迎です(学校の許可を得て応募してください)。応募は二次元コードからメールで。



「中村地域」感じる写真展

住民、空き店舗で交流企画



ミニコンサートでにぎわう会場=同ケアプラザ提供

写真展のコンセプトは「地域住民の「同窓会」で、地域で暮らす高齢者が懐かしさを感じられることや、若者に中村の魅力伝えることが前提。同ホームでのサークル活動

「愛泉ホーム」懐かしむ
 同ホームは神奈川県が1962年に設立。2005年に閉館するまで、陶芸、絵画、郷土史研究といったサークルが活動し、地域住民の憩いの場として親しまれた。住民有志で構成する「カメラ実行委員会」は

数年前まで八幡町で営業していた喫茶店「カメラヤ」、その並びにあった金物店「オオクボ」の空き店舗で中村地域の歴史を振り返る写真展を企画。中村地域ケアプラザの協力のもと、昨年6月に初めて開催して、これまでに「夏祭り」などをテーマに行ってきた。の思い出を語る住民が多いことから、今回の写真展のテーマに選んだ。

中村町3丁目に2005年まであった社会福祉施設「横浜愛泉ホーム」で活動していたサークルなどを紹介する写真展が11月26、27日に八幡町の空き店舗で行われた。住民有志が地域交流の促進などを目的に、中村地域に關係する写真展を昨年6月から定期的に開催。4回目となった今回はミニコンサートも行われ、2日間で112人が訪れてにぎわった。

同ホームを拠点としていた音楽、ボランティアサークルなどの活動が分かる写真を約120点展示。また、施設に関する資料が約10点、切り絵、陶芸サークルの作品が約20点並んだ。子どもたちが高齢者の

自宅を訪問するサークルが活動していたことや同ホームの行事で保護者による出し物が行われていたことなどから、地域の学校と交流が深かったことが伝わった。

「横浜愛泉ホームの43年間の歴史が凝縮された内容で、サークル活動の思い出が蘇った」と話し、親しみのあった施設を思い出していた。

今後も地域に根差した写真展の開催を検討している。空き店舗を活用した仕掛けを打ち出し、コロナ禍で希薄化した多世代交流の促進やにぎわい創出を目指すという。